

⑥ 学生の声に対する感想や意見をお寄せください。紙面に掲載する場合があります。〒960-8602 福島民報社地域交流部。アクセスは024(531)4117、メールはchiki@fukushima-minpo.co.jp(対外電話部を明記してください)

**日下先生** 福祉学部福祉心理学科では学外授業科目として地域ボランティア活動を取り入れ、学生の自主的な地域貢献活動を推奨している。本学の学是である「真心こそすべてのすべて」の精神に基づき、福祉と心理を学ぶ学生が真心を育み、専門職者意識を高められるようにすることを目的としている。これまでの活動を振り返り、何か提言したいことはあるか。

**石渡** 「ふくしまキッズ博」で活動している。東日本大震災の後、福島の子どもたちが親子で遊べるようにと開催され、県内4大学の学生有志が企画から運営まで携わっている。継続的な開催には何よりも学生のネットワークが大事で、それを支えてくれる企業や行政の協力なしでは実現できない。

**日下先生** 「こどもの笑顔は太陽だ」と書かれたスタッフおそろいのTシャツには、学生の思いが込められているね。企画から運営まで手掛けることは、時間や精神面で大きな負担になるけど、子どもたちの笑顔を見れば報われる。全国に情報発信してほしい。持続可能なイベント運営では、産学官の連携がキーワードになる。

**三箇** 高校生の頃からサマースクールに取り組んでいる。小中学生の学習支援と居場所づくりだ。子どもたちの心身の成長をしっかりと理解できるようになった。児童福祉司を目指している。これから励んでいきたい。

**遠藤** 児童福祉に関心を持ち、児童養護施設で学習支援などを行っている。授業だけでは養えない判断能力や応用

力を身に付けることができた。

**日下先生** 子どもの行動だけに着目するのではなく、なぜそのように行動したのかなど、背景にまで視野を広げて考えられるように、学んだことを今後の活動に生かしてほしい。

**鈴木** 地域の高齢者との食事会に参加している。祖父母と同居していないので、どのようにコミュニケーション

## 地域と福祉

# ボランティアで学ぶ



福祉学部福祉心理学科  
写真右から鈴木明さん(4年)、遠藤悠華さん(3年)、佐藤和佳さん(2年)、木村佑希乃さん(同)、石渡大輝さん(同)、三箇頭人さん(同)、日下輝美教授・学科長

を取ったらいいか不安だった。参加してみると優しく明るい方が多く、毎月の食事会が楽しみで、地域福祉や高齢者福祉に興味を持つようになった。

**日下先生** 継続して取り組むことで、「以前できなかったことに挑戦する」「どんな会話をしようか」など、目標を立てることができる。

**佐藤** 飯館村のイベントを通じて村の「今」を知ることができた。伝聞だけではなく、直接出向くこと、出会うことの大切さが分かった。心の底から感じる事ができた。一層の復興支援や心のケアの必要性を感じている。

**木村** 伊達市に住んでおり、地元の社会福祉協議会の活動に参加した。自分が知らないだけで、身近なところにもイベントがあふれていることが分かった。住民が社会参加するためには、積極的に情報を発信する必要がある。

**日下先生** 保健・福祉分野の活動を通して「人ごと」ではなく「わがこと」として捉えられるようになった。継続的な活動に加え、情報発信の重要性を挙げている。みんなが感じ、考えたことを将来に役立ててほしい。

＝次回は10月第4週に掲載予定